



一隅を照らそう
8月号

295号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

謹んで西日本豪雨災害の

お見舞いを申し上げます

○救援義援金を募っています。
○「天台宗一隅を照らす運動総本部」へ送金します
神木山

雲

住職 中島 有淳

このところ夏の暑い陽差しが容赦なく照りつけ、記録的な高温が連日続いています。西日本の豪雨災害から一転して、日本中猛暑で被災地はさぞ片付けに大変と、心よりお見舞い申し上げます。子供の頃は、夏の暑さといってもこんなに極端ではなく、団扇で事足らし、余程の場合に扇風機に活躍してもらおう程度でした。小学生の頃、夏休みといえば、どこかに連れていってもらってもなく暇で、セミやカブト虫採りが定番で、寺の附近をかけ回っていたものでした。

暑い日中の過ごし方といったら、古い庫裡と本堂の渡り廊下に寝そべって昼寝をしたり、そこからの青い空にぽっかりと浮かぶまっ白な雲をボーッと眺めていたものです。それはかき氷の形であったり、動物のようであったりと、姿形がいつの間にか変化するのが面白く、一日飽きもせず見ていたものです。

おうい雲よ
ゆうゆうと
馬鹿にのんきさうぢやないか
どこまでゆくんだ
ずっと磐城平の方までゆくんか

山村暮鳥 明治17年生 『雲』

作者は悠然と流れる雲を見ながら、夢を大きくふくらませています。私はその頃に知り覚えたかどうか忘れましたが、この詩が好きで昔、よく口ずさんだものです。

最近たまたま手にした本にこの詩があり、とても懐かしく当時を思い出しました。作者は群馬県の山村出身。恵まれない家庭環境から、神学校を出てキリスト教の伝道師となり、後に大乘仏教に帰依しています。若くして病に侵され闘病生活を余儀なくされ、四十才の若さで療養先の大洗町で亡くなったそうです。

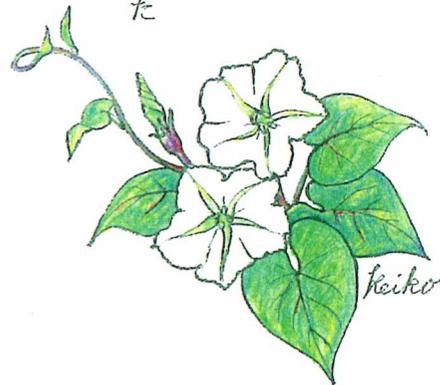
しかし、詩に表現されたゆったりと明るくのびやかな感じから、つらいそんな境遇は微塵も感じられず、夏の雲が流れる如くのびのびとしています。きっと作者の心もそうでありたい、またそうであったに違いありません。素材で子供の描いた絵のような詩で口ずさみたくなりとても魅力的です。

病床にあっても、心はすこしもベットに縛られていなかったのでしょう。

夏の宵

折りふしのはな

じりじりと照りつける
太陽の暑さから
少し開放される夕ぐれ時
ほの暗い中
かんびょうの白い花が
ポツと浮かび上がる
そんな時 父がしてくれた
「耳なし芳一」の話
子供心に
白いかんびょうの花と
『芳一』と呼ぶ声が相俟って
ゾワゾワツとした
幻想的な 夏の宵



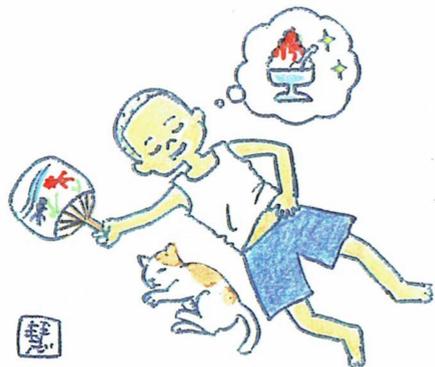
(遊)

月例行事案内

- ◎八 日 午後二時
薬師如来祈禱会 観音経読誦
- ◎十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
- ◎十八日 午後二時
観音経読誦法要(於・神木観音堂)
- ◎二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

どなたさまでも
ご参詣下さい



お施餓鬼のご案内

餓鬼にいろいろな飲食を施し、万霊の追福供養の法会です。今の自分に与えられた命を尊び、感謝し長生きを願う意味をもっています。
どなたさまもご自由にご参加下さい。

記

*日 時 八月十五日(水)
*時 間 午後二時 法要開始

あとがき

○暑中お見舞い申し上げます。

○何故に「カジノ法案強行採決」なのか、さっぱりわかりません。

○名古屋場所大相撲は関脇御嶽海が初優勝。三横綱、一大関が休場だったとはいえ、大器を思わせます。

○もうすぐこの暑さの中、甲子園高校野球が始まる。ああ青春だ。

○火星が7/31十五年ぶりに地球に大接近。六千万和弱まで近づき小型の望遠鏡でも模様が見えるとか、NASAの有人探査計画が2030年代に計画。火星人とご対面か。

○寺のトイレ改修工事が終了。期間中ご迷惑をおかけ致しました。

○いままでこれ程「熱中症」と言って騒がれることが無かった気がします。どうかお大事にお過ごし下さい。